

大府市家庭教育支援チーム

“ ～教育の機会をつなぐ～ 三つ葉 ”

(1)活動主体(チーム)について

①チーム名 (呼称)	<p style="text-align: center;">大府 市家庭教育支援チーム</p> <p>(呼称: ～教育の機会をつなぐ～ 三つ葉)</p> <p>URL: http://lit.link/en/anyschoolingmitsuba</p>
②活動拠点	大府市北崎町3丁目123『ハナレ』
③活動範囲	愛知県知多地区、西三河地区、(尾張地区、東三河地区)
④組織体制	<p style="text-align: center;">9 人</p> <p>代表1人、副代表1人、相談員2人、不登校児童生徒支援員1人、 コミュニケーショントレーナー1人、給食調理員2人、活動支援スタッフ1人</p> <p>うち2人 中学校・高等学校教諭免許状保持者、 1人 元小中学校内相談員・小中学校特別支援補助員、 1人 児童発達支援士・放課後児童支援員認定資格保持者、 1人 調理師免許保持者</p>
⑤活動開始年度	令和3年度
⑥問合せ先 【公表可能な連絡先】	<p>(部署・氏名等)代表 三浦 純子</p> <p>(TEL) (E-mail) anyschooling.mitsuba@gmail.com</p>

(2)活動内容について

①活動形態 (複数チェック可能)	<input checked="" type="checkbox"/> 保護者等への学びの場の提供 <input checked="" type="checkbox"/> 保護者等への地域の居場所づくり <input checked="" type="checkbox"/> アウトリーチ型家庭教育支援(※保護者の居場所に出向いて届ける支援) <input checked="" type="checkbox"/> 自宅に届ける支援(情報提供、相談対応等) <input checked="" type="checkbox"/> 保育所・幼稚園・学校等に届ける支援(情報提供、相談対応等) <input checked="" type="checkbox"/> その他の保護者に届ける支援(情報提供、相談対応等) <input checked="" type="checkbox"/> その他(不登校児童の体験企画や社会見学の開催)
②活動対象 (複数チェック可能)	<input type="checkbox"/> 乳幼児 <input checked="" type="checkbox"/> 小学生(低学年) <input checked="" type="checkbox"/> 小学生(中学年) <input checked="" type="checkbox"/> 小学生(高学年) <input checked="" type="checkbox"/> 中学生 <input checked="" type="checkbox"/> 高校生以上 <p style="text-align: right;">の子供を持つ保護者に対する活動を実施</p>

③活動内容

【具体的な活動内容】

・座談会の開催

月に1度、子どもの不登校や学校生活に悩む保護者のための座談会を開催している(参加費無料)。自分の思いを話したり経験者の話を聴いたりすることで、不安に向き合い、思考を次へ進めるきっかけや孤独感を軽減する機会としたい。また、学校対応や進路、民間の居場所や体験に機会等に関する情報交換の場でもある。保護者の座談会中、子どもたちはスタッフを交えて遊んで過ごし、不登校をきっかけに外出しにくくなってしまった子どもたちにとって、集団で遊び、笑い、思い切り体を動かす機会となっている。

・子どものための体験学習の企画を開催

登校できない子に対し、学習面だけでなく社会性を培う機会をどのように与えられるのか困っているという保護者の声が多い。三つ葉では、竹細工のワークショップ、クッキーハウス作り、勉強会、社会見学等を企画して、子どもたちに単身では得難い学びの機会を提供する。子どもにとっては、外に出かけて人と交流を持ったり、新しいことに挑戦したりする機会となる。また、三つ葉のスタッフに馴染んだ子は保護者から離れて活動に参加することができるため、普段は四六時中子どもと過ごすことになった保護者にとって自分の時間を持つ機会にもなる。美容院、通院、息抜き等の時間を得ることで、保護者のリフレッシュにもなると考えている。

・個別相談

子どもの様子や学校との関係について傾聴し、保護者の思いに寄り添いながら選択肢を一緒に考えることで、一人で悩む孤独感を軽減したい。児童の置かれた状況によっては、スクールカウンセラーや、学校、行政の支援窓口に繋ぎ、児童が学校でより過ごしやすい環境を得られるように、あるいは児童と保護者が適切な支援を受けられる様に適切な人や場所へつなぐ。

・機関紙の発行・SNS への投稿

交通の便、時間的、あるいは心身等の理由で対面企画に参加できない子どもや保護者に対しても、どのような支援があるか、進路選択があるか、体験的学びの機会があるか等を発信して届ける。種々の支援が存在すると伝えることが、孤独に悩まずに誰かに相談しようという思いに繋がってくれたらと思う。また、当事者ではない社会の人々にも三つ葉の活動や子ども達の様子を届けることによって、地域社会全体が『不登校』という状況に対して偏見を強めず、子どもや保護者の思いに理解を深めて寛容に見守れるような雰囲気作りをしたいと考えている。

<p>④活動の成果 (活動実績がある場合)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・スクールソーシャルワーカーと相談して、児童への合理的配慮を学校に求め、当該児童の学校生活のストレスが軽減したとともに、保護者の負担も軽減することができた。 ・地域で活動する他の市民団体と協働して企画を行うことで、子どもたちに安価で幅広い体験の場を提供することができた。また、協働する市民団体の活動を広めるきっかけにもなった。 ・不登校の経験者や、保護者として不登校児童を持った経験者の話を聴き、参加者とともに『不登校な我が子への寄り添い』について一緒に考え話し合う機会を作った。 ・相談先を持たず孤独に悩んでいた保護者を、スクールソーシャルワーカーや行政の支援窓口へ繋ぎ、複数の継続的な居場所や相談場所を持てる様に関係をつないだ。 ・参加保護者から、「これまでひとりで悩んでいたが、座談会で情報を得たり、自分の思いを聴いてもらうことで心が楽になって前向きになれた」「三つ葉が居てくれて、出かけられる場所ができて、ありがたい」という声を聴くことができた。 ・参加児童から、「三つ葉に来てよかった」「三つ葉に参加することが今の1番の楽しみ」という声を多数聴くことができた。 ・参加保護者から、「三つ葉で友達ができて自信になったのか、自分から”今日は登校してみる”と言って、自分で登校した。」「スクールソーシャルワーカーに繋いでもらったり、学校との話し合いがスムーズになり、校内での理解が得られたりしたこと登校できる日が増えた」という声をいただいた。
<p>⑤活動財源 (複数チェック可能)</p>	<p> <input type="checkbox"/> 文部科学省補助事業(事業名:) <input type="checkbox"/> 文部科学省委託事業(事業名:) <input type="checkbox"/> 厚生労働省事業(事業名:) <input type="checkbox"/> 地方公共団体単独事業として実施 <input type="checkbox"/> 特段の予算措置はない(自主的に活動を実施) <input checked="" type="checkbox"/> その他の支援により活動を実施 (事業名:大府市ひとまちおうえん基金) </p>